

テレワーク導入実証実験 参加企業

システムデザイン開発株式会社

情報通信業

所在地 ● 札幌市中央区南1条西10丁目1番2 SDDビル
電話番号 ● 011-281-6770
代表者 ● 代表取締役 菅野 満
従業員数 ● 32人
資本金 ● 3,800万円
事業内容 ● 受託システム開発、システムコンサルティング、
クラウドサービス・テクニカルシステムの開発・提供
URL ● <http://www.sddgrp.co.jp>

スキルと経験のマッチングが、 成功の鍵

システムデザイン開発株式会社では、自社のホームページ作成とソフトウェア開発を行うテレワーカー、計2名を導入実証実験で採用しました。総務部の三浦正知さんは「テレワーカーのスキルと経験が、会社の求めるレベルに合っているかが成功の鍵だと思います」と話します。



総務部 課長 **三浦 正知さん**

就労継続を目的に、 テレワーク制度の拡充を検討

初めから在宅勤務を前提としたテレワーカーの雇用には、いくつかの壁があると三浦さんは考えています。「教育にかかる時間がほぼないこと、社内のやり方に精通していないこと、強い信頼関係が築かれていないこと、といった理由から、コミュニケーションがスムーズに行かなかったり、結果として求める人材の幅が非常に狭くなってしまうのではないかと思います」と難しさを指摘します。

一方、企業にとってテレワーカーを雇用するメリットとして、外注に比べてコストをおさえられることを挙げます。今後は、すでに雇用している社員にテレワークを拡充していくことを検討したいと考えて、「女性社員に結婚や育児を経ても働き続けてもらうためには、テレワークというツールが必要になってくると思います。そして、性別に関係なく、介護を理由に在宅勤務を希望する社員も出てくると思います。導入を本格的に検討する時期に来ていると考えています」と前向きです。

予定を把握することで、 コミュニケーションが円滑に

「テレワーカーにある程度の経験値が無いと、こちらの指示を伝えることは容易でないと感じました」と振り返ります。

しかし、そうした中で、コミュニケーションを円滑に進めるための要点に気づいたと言います。「テレワーカーが作業を進めるスケジュールをこちらが把握していると、仕事の様子が見えやすく、タイムリーな連絡のやり取りもできるため、スムーズに進めることにつながる」ことがわかりました。また、業務経験以外にも、現在主流になっているコンピューター言語に関する専門知識なども、細かい指示を伝えるためには重要だと感じています。日々のコミュニケーションはメールで行い、データのやり取りや管理については「IBM SoftLayer (ソフトレイヤー)」というクラウドサービスを使い、問題なくファイルの共有などができました。

社員の意識変革へ、 トップから変わることが重要

社内にはテレワークを導入するためのシステム環境がすでに整っていますが、それでも課題はあります。「今は、『会社にいるのが当たり前』という企業風土ですので、会社にいる、いないに関わらず、『成果を認める』という文化ができないといけません」と前置きし、「社員に辞められると損失はとて大きい。一時的に休んでも働き続けてもらうためには、管理職が週1日程度で在宅勤務を取り入れるなど、トップから変わることが必要だと思います。前例を作れば、社内全体が変わるのではないのでしょうか」と、今後の展望を語ります。